

飛鳥資料館 夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」

遺跡の発掘調査や文化財の調査研究、あるいは保存修復をおこなう上で、遺物の材質・構造調査、遺跡の環境調査、動植物遺存体による古環境の復元、木質文化財の年代測定、遺跡の計測・探査等、自然科学的手法を応用した調査研究はたいへん大きな役割を果たします。これらは「考古科学」と呼ばれており、奈良文化財研究所では埋蔵文化財センターが中心となって研究を進めています。

飛鳥・藤原京の調査においても、こうした考古科学の活躍は目覚ましいものがあります。そこで今回は、飛鳥・藤原京を主な舞台に、発掘調査から整理作業、保存・活用まで、さまざまな場面における考古科学の役割と成果を、分かりやすく紹介する展覧会を企画しました。実際に調査で用いた機器類とともに、調査の対象となった考古資料もまじえつつ、奈文研における考古科学の最前線を紹介します。

(飛鳥資料館 丹羽 崇史)

会 期：2013年8月1日(木)～9月1日(日)

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで、年末年始・月曜休館)

ギャラリートーク：8月4日(日)13:30～ 8月18日(日)13:30～

ホームページ：<http://www.nabunken.go.jp/asuka/index.html> お問い合わせ：☎0744-54-3561(飛鳥資料館)



考古科学調査機器類と
高松塚古墳版築のはぎ取り

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp/>
Eメール jimu@nabunken.go.jp
発行年月 2013年6月